

## 「住吉神社の能舞台」

兵庫県明石市

住吉神社からは、播磨灘を一望でき、小豆島や淡路島、晴れた日には四国を望むことができる。住吉神社の由来については、4世紀頃に神功皇后が朝鮮半島への遠征の際に播磨灘で暴風雨に遭い、ある海岸に立ち寄り住吉大明神に平穏を祈願したところたちまち悪天候が収まったという話とともに、もう一つの話が伝えられている。

やはり神功皇后が、帰国後に住吉大明神を木の国(和歌山県)の藤代の嶺に祀った。しかし、播磨の国に渡り住みたいという住吉大明神の託宣があった。そこで、藤の枝を切って海に流し

て神意を伺うと、明石の魚住に流れ着いたので、雄略天皇8年(464)に当地に住吉大明神を勧請し創建されたと伝えられているものである。なお、現在地は、正応5年(1292)に南東の古社地跡から遷座されたもので、この跡地からは、平安時代後期から鎌倉時代の瓦や皿が出土している。本殿は春日造りの社殿が一行に並び、境内裏手の藤は御神木として大切に育てられ、美しいことで有名である。

その他の明石市指定文化財として、慶安元年(1648)に建立された豪壮な二階造りの楼門、拝殿内に掲げられている円山応挙による「神馬の図」と石田遊汀による「加茂競馬の図」、文政2年(1819)に奉納された大和型和船模型がある。また、明石最古の石灯籠が兵庫県指定文化財に指定されている。



住吉神社の藤棚

### みどころ



- 明石城：明石城は別名「喜春城」と呼ばれ、能舞台と同じ初代明石城主小笠原忠真による築城。東西にある2つの櫓は国の重要文化財に指定されている。兵庫県南部地震により櫓や石垣などが大きな被害を受けたものの、これらの修復に併せて2つの櫓をつなぐ白壁の土塀も復元された。
- 魚の棚(うおんたな)商店街：明石城の築城とともに、宮本武蔵による城下町の町割りの設計により誕生したと伝えられる古い歴史を持つ市場。今もなお約110の店舗が軒を連ね、地元でとれる新鮮な海産物や加工品を買い求める人に加え、「明石焼」を食す人でいつも賑わっている。